デジタル田園都市国家構想交付金事業　KPI一覧

資料1

【地方創生拠点整備タイプ】

未来体育館での健康・地域活性化事業

				現状値	R3	R4	R5	R6	R7
KPI①	スポーツツーリズムによる経済波及効果　（万円）	実績値	目標(KPI)	140,168	－	－	－	180,168	212,500
			実績	－	－	－	－	123,248	132,490
			差分	－	－	－	－	−56,920	−80,010
			達成率	－	－	－	－	68%	62%
KPI②	スポーツ合宿誘致件数(件)	実績値	目標(KPI)	－	－	－	－	50	100
			実績	－	－	－	－	51	84
			差分	－	－	－	－	1	−16
			達成率	－	－	－	－	102%	84%
KPI③	年間宿泊者数(百人)	実績値	目標(KPI)	918	－	－	－	968	1,018
			実績	－	－	－	－	1,120	1,078
			差分	－	－	－	－	152	60
			達成率	－	－	－	－	116%	106%
KPI④	文化・スポーツ複合施設利用者数(人)	実績値	目標(KPI)	－	－	－	－	30,000	40,000
			実績	－	－	－	－	58,801	73,149
			差分	－	－	－	－	28,801	33,149
			達成率	－	－	－	－	196%	183%

※KPI①現状値は平成30年度の実績値
※KPI③現状値は令和元年度の実績値

四方八方絶景三昧！ActiveField形成プロジェクト

				現状値	R4	R5	R6	R7	R8
KPI①	八方ヶ原の観光入込数(人)	実績値	目標(KPI)	153,930	163,930	178,930	193,930	203,930	213,930
			実績	－	172,660	161,150	161,510	163,950	－
			差分	－	8,730	−17,780	−32,420	−39,980	－
			達成率	－	105%	90%	83%	80%	－
KPI②	山の駅たかはらの利用者数(人)	実績値	目標(KPI)	0	64,215	72,215	78,215	80,215	82,215
			実績	－	69,870	64,984	64,590	65,580	－
			差分		5,655	−7,231	−13,625	−14,635	－
			達成率	－	109%	90%	83%	82%	－
KPI③	山の駅たかはらの売上高(万円)	実績値	目標(KPI)	918	2,146	2,616	2,736	2,776	2,796
			実績	－	1,561	1,568	1,582	1,702	－
			差分		−585	−1,048	−1,154	−1,074	－
			達成率	－	73%	60%	58%	61%	－

※現状値は令和元年度の実績値

「シームレスなスマート・スポーツ合宿」を実現するモデル施設整備事業

				現状値	R5	R6	R7	R8	R9
KPI①	スポーツツーリズムによる年間経済波及効果(万円)	実績値	目標(KPI)	121,905	150,505	195,505	212,505	215,005	220,005
			実績	－	118,602	123,248	132,490	－	－
			差分	－	−31,903	−72,257	−80,015	－	－
			達成率	－	79%	63%	62%	－	－
KPI②	城の湯やすらぎの里全体の年間売上高(指定管理料を除く)(万円)	実績値	目標(KPI)	5,690	7,430	11,008	11,090	11,158	11,226
			実績	－	5,169	8,072	9,447	－	－
			差分	－	−2,261	−2,936	−1,643	－	－
			達成率	－	70%	73%	85%	－	－
KPI③	城の湯やすらぎの里スポーツ合宿(宿泊)団体数(団体)	実績値	目標(KPI)	－	－	50	60	70	80
			実績	－	－	51	84	－	－
			差分	－	－	1	24	－	－
			達成率	－	－	102%	140%	－	－
KPI④	文化スポーツ複合施設利用者数(人)	実績値	目標(KPI)	0	－	30,000	40,000	47,000	52,000
			実績	－	－	58,801	73,149	－	－
			差分	－	－	28,801	33,149	－	－
			達成率	－	－	196%	183%	－	－

※KPI①:現状値は令和3年度の実績値
※KPI②:現状値は令和2年度の実績値

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）
効果検証シート（R７実績分）

事業名	未来体育館での健康・地域活性化事業
事業概要	スポーツ交流人口の更なる増加や、市民の健康づくりを進めるため、AI、5G通信を活用した未来技術を導入した文化スポーツ複合施設を中心市街地の「とちぎフットボールセンター」同一敷地内に整備した。 未来技術を活用して文化活動の映像配信、スポーツ活動の行動分析、市民の健康診断及び保健指導のほか、スポーツ合宿の誘致等のスポーツツーリズムの展開を図り、地方創生の拠点施設としてまちづくりを推進していく。 未来技術を活用した事業にて得られたビッグデータは民間に対して共同利用を図り、施設を中心としてSociety5.0の実現と発信を進める。
事業内容	「とちぎフットボールセンター」敷地内に、バスケットボールコート2面、うち1面は収納可能な観覧席を有する文化スポーツ複合施設を建設した。 施設内にはAI技術等の未来技術を導入し、映像データ、運動データ、健康づくりデータ、周遊・行動記録データ、障がい支援データ、災害関連データを取得、蓄積していく。 スポーツ・文化活動の映像配信、トレーニング環境の整備とスポーツドック事業、健康ステーション事業、地域・観光情報サービス事業、施設利用者への各種情報提供等の事業を実施し、市内外から人を呼び込み地域経済の活性化を図る。

KPI①	スポーツツーリズムによる経済波及効果（万円）
KPI②	スポーツ合宿誘致件数（件）
KPI③	年間宿泊者数（百人）
KPI④	文化・スポーツ複合施設利用者数（人）

	事業開始前（現状値）	1年目 令和3年度	2年目 令和4年度	3年目 令和5年度	4年目 令和6年度	5年目 令和7年度	KPI増加分の累計
目標値（KPI①）	140,168.0	0.0	0.0	0.0	40,000.0	32,332.0	72,332.0
目標値（KPI②）	0	0	0	0	50	50	100
目標値（KPI③）	918	0	0	0	50	50	100
目標値（KPI④）	0	0	0	0	30,000	10,000	40,000
実績値（KPI①）		0.0	0.0	0.0	-16,920.0	9,292.0	-7,628.0
実績値（KPI②）		0	0	0	51	33	84
実績値（KPI③）		0	0	0	202	-42	160
実績値（KPI④）		0	0	0	58,801	14,348	73,149

予算額(円)	1,751,006,000	実績額(円)	1,344,473,000

施策の有効性	市の中心市街地に位置する場所に、フットボールセンターと隣接し文化スポーツ複合施設を設置している。施設では、最先端のデジタル技術を導入して様々な事業を展開することにより、一段階上の文化活動・スポーツ活動を行うことができ、市民の健康増進、スポーツツーリズムの推進拠点として市内外からの人の流れを作り、地域活性化を図ることができた。
達成できなかった理由	スポーツ合宿誘致件数については、前年度と比較して33件増えていることから、引き続き城の湯等と連携して団体の合宿誘致を図る。
今後の方針	開場２年目となり、一定程度の周知もされた。また、合宿についても１年目の利用者に加え、新たな団体も増えたことにより特に長期休暇中の利用が増大した。また、トレーニングエリアについても定期の利用者がつき、IBODYやINBODY等体組成計を活用し市民の健康増進に寄与できている。定期団体の優遇措置による利用増加施策や合宿利用のリピーター確保や増加を図っていく。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）
効果検証シート（R7実績分）

事業名	四方八方絶景三昧！ActiveField形成プロジェクト
事業概要	これまで来訪客の集中時期に波があった八方ヶ原について、「通年型・滞在型観光」を実現するため、ポストコロナに向けた観光需要に対応可能なアウトドア体験や宿泊が可能となるよう、矢板市八方ヶ原交流促進センター（以下「山の駅たかはら」）の機能や観光コンテンツの拡充を図ることで、八方ヶ原全体の観光客入込数の増加と観光消費額の増加を目指す。
事業内容	山の駅たかはらをアウトドア観光の拠点とするため、施設内に受付用カウンターや施設利用者向けのWi-Fi機器を設置するほか、キャンプ場やアウトドアアクティビティ利用者が利用するためのシャワー室の設置を行う。 山の駅たかはらの周辺では、指定管理者や地域の事業者によるキャンプ場の運営やキャニオニング、マウンテンバイク、スノートレッキングなどのサービス提供を行うものとする。

KPI①	八方ヶ原の観光入込数（人）						
KPI②	山の駅たかはらの利用者数（人）						
KPI③	山の駅たかはらの売上高（万円）						
	事業開始前（現状値）	1年目 令和4年度	2年目 令和5年度	3年目 令和6年度	4年目 令和7年度	5年目 令和8年度	KPI増加分の累計
目標値（KPI①）	153,930	10,000	15,000	15,000	10,000	10,000	60,000
目標値（KPI②）	61,215	3,000	8,000	6,000	2,000	2,000	21,000
目標値（KPI③）	1,886.0	260.0	470.0	120.0	40.0	20.0	910.0
実績値（KPI①）		18,730	-11,510	360	2,440		10,020
実績値（KPI②）		8,655	-4,886	-394	990		4,365
実績値（KPI③）		-325.0	7.0	14.0	120.0		-184.0
予算額(円)	35,420,000		実績額(円)		34,595,000		

施策の有効性	本年度も全てのＫＰＩについて目標値を達成できていないものの、八方ヶ原への観光入込数は前年度と比較して増加しており、また、山の駅たかはらの令和７年度売上は令和３年度以降過去最高となっていることから、事業は有効と判断できる。
達成できなかった理由	目標値には届かなかったものの、山の駅たかはらは前年度と比較して101.5%、売上実績は前年比107.9%と増加傾向となっている。
今後の方針	山の駅たかはらの魅力向上に努める。レストランのメニューの見直しや売店の品揃え、見せ方を工夫する。 また、「避暑地」を前面に打ち出したキャンプ場も積極的にPRしていく。更に市内施設との連携の一環として、お客様の動線と立ち寄りのニーズ調査を行い、市内回遊を促す施策について分析・検討する。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）
効果検証シート（R７実績分）

事業名	「シームレスなスマート・スポーツ合宿」を実現するモデル施設整備事業
事業概要	矢板市城の湯温泉センターの既存の温泉施設（１号館）は継続しつつ、２号館については新たに宿泊施設に改修する。新たに開業する文化スポーツ複合施設と連携を図ることで、データを活用した付加価値を提供するスポーツ合宿のモデルとしての機能強化を図り、「矢板市城の湯温泉センター」を、スポーツ合宿を軸とした「滞在型スポーツツーリズム」の拠点とする。
事業内容	【城の湯温泉センター２号館浴室等を宿泊施設へ改修】 ２号館西側を宿泊施設へ改修する。客室は19部屋で定員50名とし、現在のスポーツ合宿のニーズをふまえ、シングル及びツインでの利用を中心に、4名部屋などの利用も可能とした。 【「スマート・スポーツ合宿」プログラムの実施】 行動認識AIデータや体組成計、フードモデル食育システムを提供することで、子どもの合宿から、より競技志向の高いチームまでの合宿誘致が可能となる。 【高速インターネット通信及び無料Wi-Fiの整備】 文化スポーツ複合施設で得られた行動認識AIデータ等を即時に利用できるように通信環境を整備した。

KPI①	スポーツツーリズムによる年間経済波及効果（億円）						
KPI②	城の湯やすらぎの里全体の年間売上高（指定管理料を除く）（万円）						
KPI③	城の湯やすらぎの里スポーツ合宿（宿泊）団体数（団体）						
KPI④	文化スポーツ複合施設利用者数（人）						
	事業開始前（現状値）	1年目 令和5年度	2年目 令和6年度	3年目 令和7年度	4年目 令和8年度	5年目 令和9年度	KPI増加分の累計
目標値（KPI①）	12.19	2.86	4.50	1.70	0.25	0.50	9.81
目標値（KPI②）	5,690.00	1,740.00	3,578.00	82.00	68.00	68.00	5,536.00
目標値（KPI③）	0	0	50	10	10	10	80
目標値（KPI④）	0	0	30,000	10,000	7,000	5,000	52,000
実績値（KPI①）		-0.33	0.46	0.92			1.05
実績値（KPI②）		-521.00	2,903.00	1,375.00			3,757.00
実績値（KPI③）		0	51	33			84
実績値（KPI④）		0	58,801	14,348			73,149
予算額(円)	218,812,000		実績額(円)		208,646,979		

施策の有効性	令和７年度の城の湯での合宿団体数は、文化スポーツ複合施設と連携したこともあり、目標値を達成しており、また、城の湯単体で収支黒字も達成した。令和８年度においても、団体集客のため相互連携を図っていくため、施策の有効性はあると考える。
達成できなかった理由	経済波及効果については、酷暑等によるアウトドア需要の減少が影響したものの、全体としては前年比114.7%の伸びであった。
今後の方針	城の湯温泉センターと文化スポーツ複合施設が連携を図り誘客を強化する。また、学生団体合宿を得意とした旅行会社との連携や大手宿泊予約サイトのキャンペーンを活用し集客を図る。 更に、大会誘致にも注力し、市内宿泊客の増加を図る。